

## 第 6 編 參考資料編

## 第1章 調査に関する資料

### 第1節 滋賀県の概要

滋賀県の地形、地質、植生および気象の概要を以下に示す。

#### (1) 地形の概要〔「第三回自然環境保全基礎調査」(環境庁、昭和63年)〕

滋賀県の地形は、琵琶湖を中心にその周辺に沖積低地、丘陵地、さらにそれらの外縁部を1,000m級の地壘山地が取り囲むという特徴をもっている。琵琶湖は六甲変動によって形成された近江盆地底が滞水してできた湖盆である。盆地縁は同じ地殻変動によって形成されたと考えられる湖東の伊吹山地、鈴鹿山脈や湖西の比良山地、比叡山地など南北に卓越した地壘山地群、および湖南の小起伏をなす信楽・田上山地、湖北の断層地塊群などからなっている。沖積平野と丘陵地は、琵琶湖と山地の間にドーナツ状に配列し、盆地床を形成している。このように盆地地形からなる本件では、一部の地域を除いて分水嶺と県境が一致しているため、120余の河川のほとんどが琵琶湖に流入し、その水は瀬田川を通じて大阪湾に流出する。

#### (2) 地形の概要〔「滋賀県の地盤」

(全国地質調査業協会連合会、地質と調査、1995年第3号、松岡長一郎、平成7年)〕

##### 1) 地質の概要

県内の地盤をなす主な地層と岩体を図1.1の地質図に表す。これらの地質の時代区分と地史の概要を表1.1に示し、以下に、それらの各地質について総説する。

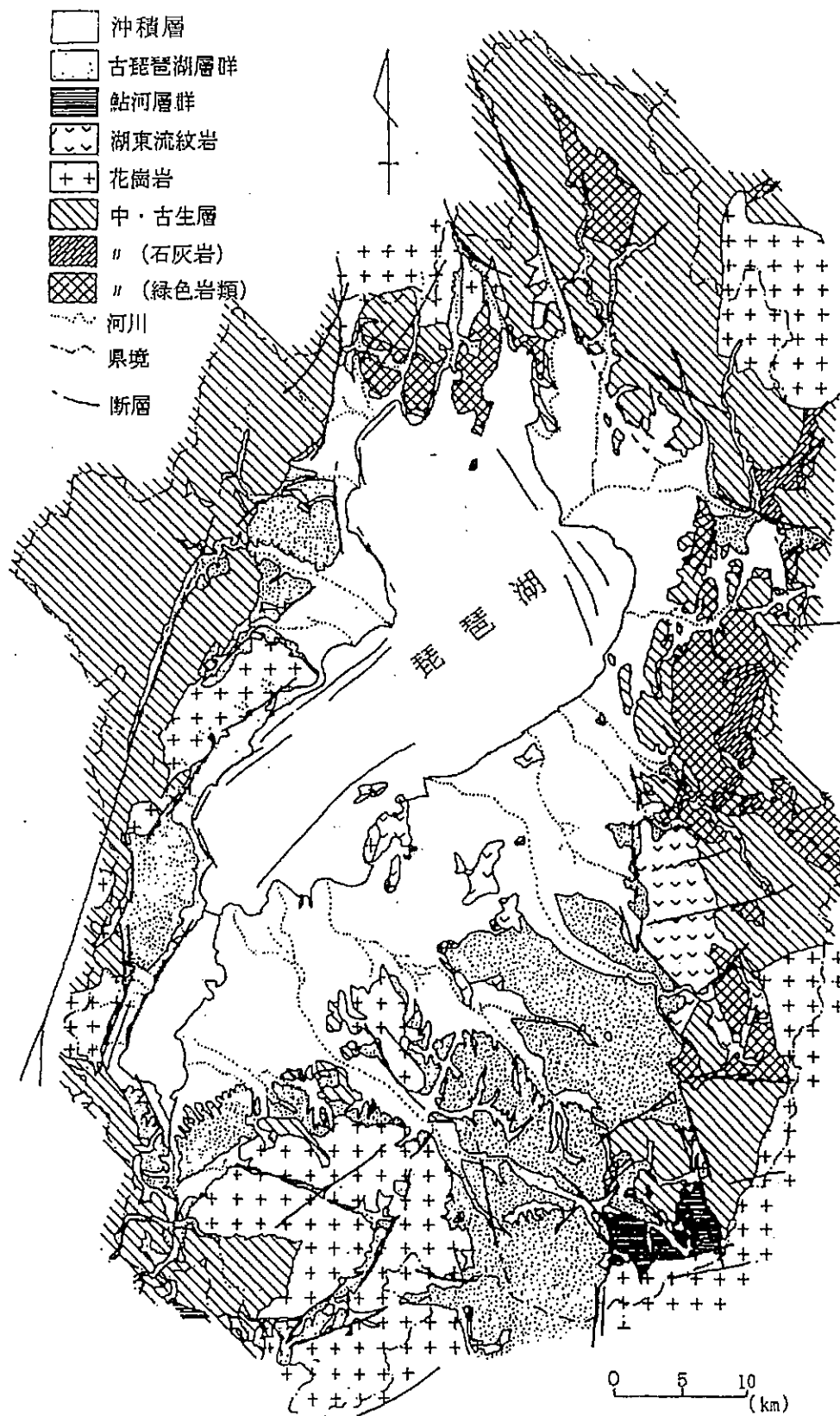


図 1.1 滋賀県の地質図

表 1.1 滋賀県の主な地質の時代と地史概要

(X百万年前)		地質時代	主な地層・岩体	地史概要	
現在	0.01	第四紀	沖積層	歴史時代～縄文時代 旧石器時代 段丘の形成 鈴鹿・比良山地の上昇	
			段丘堆砂物		
	1.7	新第三紀	古琵琶湖層群	湖盆の移動 古琵琶湖の誕生	
	5.1		鮮新世		
	24	古第三紀	黏河層群	関東南部に浅海の侵入  陸地の浸食時代	
			中新世		
	65	白亜紀	花崗岩類および 湖東流紋岩類	湖東コールドロンの 形成と火成活動	
					漸新世
					始新世
	143	中生代	丹波・中・ 美・濃古 帯の層	ジュラ・三畳系の堆積 (一部ではオリススト ロームの形成)	
					侏羅紀
					三畳紀
	247	古生代		緑色岩類の形成(海底 火山活動)と石灰岩形	
					二疊紀
	289	石炭紀			

2) 中・古生層

盆地周縁の山地には、中・古生層が広く分布している。伊吹山と鈴鹿北部の霊仙山・鍋尻山付近には近畿地方では稀な石灰岩の大規模な採掘地があり、石灰岩と緑色岩（塩基性海底火山岩類）を主体とする地層が、広く分布する。これらの石灰岩から紡錘虫をはじめ、サンゴ、石灰藻などの化石を産し、古生代二疊紀（ペルム紀）を示す。一方、他の地域は、石灰岩に乏しく、主に頁岩（粘板岩）、砂岩などの碎屑岩類や層状チャートからなり、岩相上、非石灰岩相として区別された。しかし、これらの非石灰岩相の地層からは化石が認められず、石灰岩相の地層と共に一括して「秩父古生層」と呼ばれてきた。

本県のこの地層群は、美濃、丹波帯に属している。本来、一連のものと考えられるが、琵琶湖とその周辺低地を境として、西の“丹波帯”と東の“美濃帯”に分けられている。

ところが、従来、日本の各地で、秩父古生層とされてきた非石灰岩相の層状チャートや頁岩から、三疊紀を示すコノドントの化石が発見されるようになり、その後、さらに、ジュラ紀の放散虫化石が相次いで発見され、この地層の年代は、これらの微化石の産出によって、詳しくなり、大きく若返ることになった。

県内においても丹波帯に属する県西北部の高島郡朽木村の層状チャートから三疊紀のコノドントが発見され、上部三疊系から下位の中部～下部三疊系が含まれていることが明らかになった（吉田、1977）。また、美濃帯の伊吹山周辺の非石灰岩相の泥岩などからジュラ紀中世の放散虫化石が報告され（山本、1985）て、県下の丹波帯や美濃帯の地層群にも三疊系からジュラ系に至る中世層が多く含まれることが推定されるようになった。

近年、丹波帯では、岩相と地質時代の組み合わせによって、Ⅰ型とⅡ型と呼ばれる異なる地層群が区別され、また、美濃帯でも放散虫化石に基づく年代の検討が進み、構造的層序ユニットの区分がなされているが、県内の研究は進んでいない。

こうした構造的層序区分は、緑色岩、チャートなどに代表される海洋性岩石が、大陸縁辺部に接近、付加した時期と、その過程を明らかにする上でも重要である。

### 3) 火成岩類（湖東流紋岩類と花崗岩類）

#### (a) 湖東流紋岩類

鈴鹿山脈西部および湖東平野に分布する火山岩は、長らく「石英斑岩」とされてきたが、河田ほか（1969）によって、溶結凝灰岩の存在が明らかにされ、「湖東流紋岩」と名づけられた。

湖東流紋岩類は酸性火山岩類とこれを貫く酸性貫入岩からなり、これらは、鈴鹿山脈西縁に南北15km、東西約5kmの楕円状に分布するものを主岩体とし、平野部に残丘状山地を構成しているものを平野部岩体として区分している。両岩体は岩質的にほぼ同じで、同源の火山活動によるものである。

主岩体は、中・古生層を直接覆って、萱原・佐目・君ヶ畑の各溶結凝灰岩があり、こちらは、ほぼ同時期の活動と考えられる。そして、これらと漸移する泰荘石英斑岩の活動があった。

それらの上位には、火山活動の静穏期のものである泥質岩相の深谷層があり、その上位に八尾山火砕岩層が重なっているが、その最下部には火道角礫岩と考えられる礫岩層がある。以上を貫いて、二重の弧状岩脈を形成している犬上花崗斑岩の活動があり、最後に、これに杠葉尾火砕岩脈が貫入した。

平野部岩帯には、不明な点が多く、石田ほか（1984）は、主岩体との対比は困難としながらも、安土溶結凝灰岩を萱原溶結凝灰岩に、長明寺山・荒神山の溶結凝灰岩を八尾山火砕岩下部の溶結凝灰岩に対比している。

西川ほか（1983）は、主岩体に犬上花崗斑岩の二重の弧状岩脈があり、湖岸の奥島山や沖島にも同質の岩脈が見られることから、これらの環状岩脈を一部とする直径30kmの二重の円を描く環状断層が存在したと考えた。そして、この二重の環状断層により陥没構造（コールドロン）が形成され、これに伴って犬上花崗斑岩が貫入したと考え「湖東コールドロン」を提唱した。

陥没の落差は外側の環状岩脈で約700m、内側の環状岩脈の位置でもほぼ同じと推定している。

#### (b) 花崗岩類

琵琶湖周辺からその南にかけて、美濃・丹波帯の中・古生層を貫く花崗岩類が分布し、山地の背梁部を形成している。

それらは、比良岩体、比叡岩体、田上岩体、野洲岩体、信楽岩体、鈴鹿岩体、貝月山岩体、江若岩体に分かれる。

一般に片理を持たない等粒状優白質の中粒～粗粒の黒曇母花崗岩である。

西南日本の火成岩類は、岩質、活動時期、それに伴う鉱床の種類などによって、南から

北へ領家帯、山陽帯、山陰帯、の三帯に分けられている。琵琶湖周辺の花崗岩類は一部のものを除いて、中生代白亜紀から古第三紀にかけて活動した山陽型の花崗岩に属すると考えられる。

なお、信楽花崗岩体は領家帯新規花崗岩に属し、田上花崗岩が信楽花崗岩に貫入している事実が判明している。

琵琶湖南部の田上・野洲、鈴鹿、比良、比叡の各岩体の配列と、これらに伴う岩脈類の伸長方向が、ほぼ同一の楕円弧状をなしている。最近、これらの花崗岩類が、湖東流紋岩類の火山活動と同時期に形成された環状花崗岩質岩体であると推定され、西川ほか(1983)の推定した湖東コールドロンより遥かに大きい直径60km・短径40kmにもおよぶ巨大コールドロンの存在を示唆している(沢田ほか、1985)。

#### 4) 鮎河層群

信州西南部から瀬戸内海東部を経て、中国地方の広い地域に散在する中新統の地層群を、第一瀬戸内壘層群と呼んでいる。

県の東南部、南鈴鹿の西麓、甲賀群土山町と甲賀町の東部には、第一瀬戸内壘層群に属する鮎河層群が分布する。

鮎河層群は中・古生層と花崗岩類の基礎の上に不整合にのり、東西約10km、南北約8kmの範囲に分布している。礫岩、砂岩、泥岩、凝灰岩からなり、下位より唐戸川・千谷・上ノ平・山女原の四壘層に区分される。

本層群は北部では不整合で、東と南は断層によって、それぞれ基盤岩に接し、西側は古琵琶湖層の丘陵と断層で接している。

この地層からは、117種の貝化石(二枚貝65種、巻貝52種が識別)を始め、カニ、シャコ、ウニ、碗足類、サメやエイの歯、軟骨魚類の骨や耳石などの化石やイルカ類、ヒゲクジラ類、鯨類などの海棲大型哺乳動物の化石骨を産出する。これらの化石類や岩相から内湾性の浅海が推定でき、また、貝化石の種類やコンプトニアに代表される植物化石などから中新統の温暖な環境が推定される。

基礎礫層である唐戸川礫層は意外と固結が強く、道路開設工事を難行させた。

#### 5) 古琵琶湖層群

古琵琶湖層群は近江、伊賀盆地の丘陵地を構成する鮮新・更新統で、平野部では段丘堆積物や沖積層に覆われて、地下に広く分布している。

その積算層厚は1,500mを越え、未固結の礫、砂、シルト、粘土からなる湖泥成・河川成堆積物である。本層群には130種を越える火山灰層を挟み、有効な鍵層となり、全域の詳細な層序がほぼ確立されてきた。

本層群には、一般に北～北西に傾斜し、下位より伊賀・甲賀・蒲生・草津・堅田および高島の角壘層に区分される。

南部から北部に向かって、より上位の地層が分布し、各壘層が堆積した盆地は、時代とともに北方へ移動した。

フィッシュトラック法による火山灰層の年代測定や残留磁気の測定による古地磁気編年などによって各層の堆積年代が具体的になり、第三紀（鮮新統）と第四紀（更新統）の境界は蒲生層上部に設定される。

また、堆積構造や層相の変化、古水流の復元などの調査研究に加えて、深層ボーリングによる琵琶湖の湖底堆積物との対比などによって湖の発達史がかなり詳しく議論されるようになった。

また、伊賀層からはシンシュウゾウ、蒲生層からはアケボノゾウ、堅田層ではアケボノゾウ、シガゾウ、トウヨウゾウの化石が出ている。

古琵琶湖層群からはこれらの長鼻類やウシ類、シカ類、イノシシ類やワニ類などの大形動物化石をはじめ、数多い絶滅種や琵琶湖の固有種を含む貝類や魚類などの水棲動物化石を産出し、また、各層準の地層から採取される植物化石や花粉分析の結果からは、第三紀型のメタセコイヤ植物群の衰退や消滅、第四紀型寒冷植物群の出現や消長などが考察され、多方面にわたる古環境の変遷が推定されている。



図 1.2 古琵琶湖層群の層区分とその分布図

6) 段丘・沖積層

(a) 段丘層

段丘層は、山間の河谷沿いに断続的にみられ、水系ごとに段丘面の規模や分布高度が異なり、有効な鍵層も乏しいため、その対比は困難であるが、台地状に広い分布が見られる県西北部の饗庭野・泰山寺野を模式地として、最高位、高位、中位、低位、の四層に分けられている。一般に古い時代に形成されたもの程、高い位置にあり、面の保存も悪く、地形や堆積物、風化土壌の特徴などから区分されるが、とくに、低位段丘については、近年<sup>14</sup>C年代や広域火山灰層、植物遺体などの資料から詳しくなった。

a) 最高位段丘

丘陵の最後部に、くさり礫の著しい扇状地性の巨～大礫の卓越する10～20mの砂礫層からなり、赤色化も強い。開析が非常に進み、保存もわずかである。

b) 高位段丘

侵食谷が発達する高位にあるが、台地状で原面がよく保存される。10m前後の砂礫層で構成され河床性の性格が濃く、くさり礫が交じり、チーズ状粘土やローズ状風化土をもつ。

c) 中位段丘

河谷内に沿って広い台地状の平坦面として分布し、2～5mの厚さの河床礫で、上部に1～3mに砂～粘土の互層をもつことが多い。平坦面の高度は、湖東で230～150m、安曇川沿いで200～140m、瀬田丘陵では115～90mに位置する。

d) 低位段丘

河川沿いに上流から下流まで最もよく連続し、2～4mの風化していない砂礫層で粘土や泥炭をはさむことがあり、寒冷植物遺体を産出する。地表には黒色土がのこることがある。2面に分けられ、現河床との比高は10m以内のことが多く、下流ほど比高差が小さくなり、湖岸平野では沖積層に覆われる。

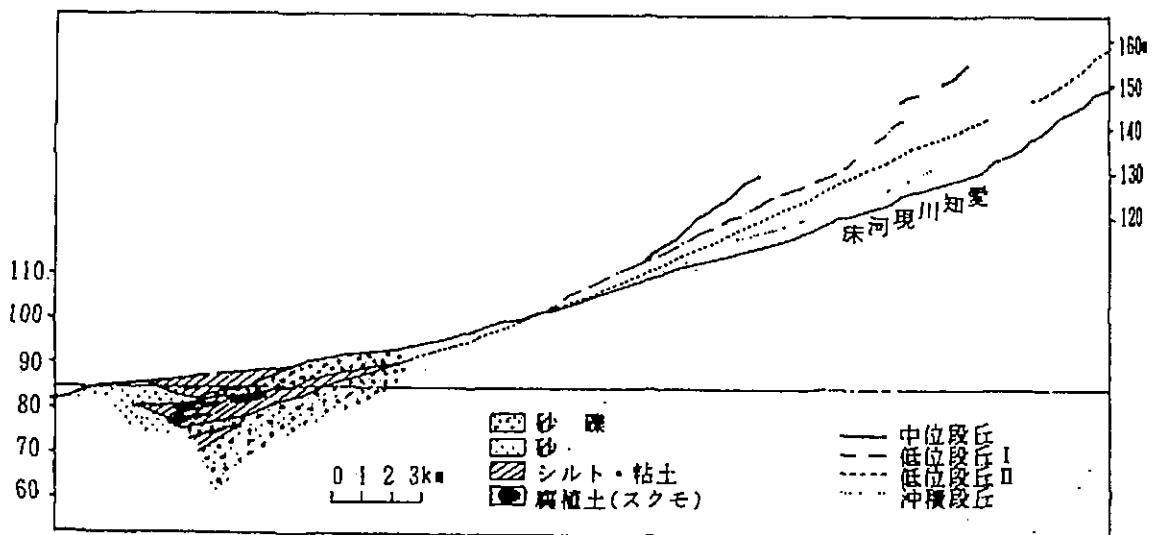


図 1.3 愛知川段丘面縦断投影と平野の地下構造との関係図



(b) 沖積層

琵琶湖に注ぎこむ諸河川の中・下流部に形成された沖積平野は、諸河川の特徴、とりわけ、上流域の地質や地形、降雨特性などを反映して発達している。県内の最長河川である野洲川の河口には、我が国最大の湖成デルタが発達し、旧南流河口のものは湖西の対岸に突き出して、琵琶湖を南湖と北湖に分けている。

湖岸平野における沖積層の基底は、土木工学上も注目されるものであるが、海岸平野に認められるような汎世界的な氷河性海面変動に対応した層序が見られないため、その判断がむづかしかった。近年、平野部の地下には、約 2、4 万年前に降下した始良 T<sub>0</sub> (A、T) 火山灰層やこれをはさむ泥炭層の存在が明らかになり、寒冷な気候を示す最終氷期の植物遺体が産出することや約 6300 年前のアカホヤ火山灰層などの広域火山灰層が知られるようになり、かなり具体的に知ることができるようになった。

最近、草津市湖岸の烏丸半島の琵琶湖博物館建設地で掘削された深層ボーリングの資料では、A、T火山灰層は地表下 25m の深さで認められたが、ほとんどの湖岸付近では A、T火山灰層の地下深度は 10~20m であることが多く、1 万年前以降の完新世の堆積層の厚さはほとんどの地点で、10m 以下であり、きわめて薄い。

(3) 植生の概要

滋賀県の植生帯は全て、ヤブツバキクラスとブナクラスの両クラス域に包含される。すなわち、沖積低地から丘陵地、山地の標高 700m 付近まではヤブツバキクラス域で、その上がブナクラス域である。ただ、両クラス域の境界は、県北部にいくにしたがって日本海型気候の影響により、標高 400m 位まで下降する。また、この境界付近に相当する山地の中腹部には、ブナクラスやヤブツバキクラスの要素が等しく出現し、その所属決定の困難な、いわゆる中間温帯林が存在する。

以下に高度別の本県の植生概要を調べる。

1) 沖積低地〔「第三回自然環境保全基礎調査」(環境庁、昭和 63 年)〕

沖積低地では、近年の急速な都市化によって植生は破壊され、残された植生といえば、水田雑草群落や耕作放棄水田雑草群落が主である。本来の自然植生はシイ・カナメモチ群集、アラカシ群落、イノデータブ群落などの常緑広葉樹林(照葉樹林)であるが、それらはほとんど皆無に等しく、わずかに社寺境内や墓地周辺などに小面積残存しているにすぎない。

2) 丘陵地

丘陵地には、モチツツジ・アカマツ群集やクヌギ・コナラ群集のような二次林が半自然植生として成立している所が多く見られる。しかし、特に湖南地方を中心に急速な都市化によって丘陵地が開発され、減少傾向にある。丘陵地では自然植生はほとんど見られないが、尾根部にアラカシ群落、山麓部にシイ・カナメモチ群集が断片的に残存していることもある。

### 3) 山 地

ヤブツバキクラス域に属する山地下部は、大部分モチツツジ - アカマツ群集によって覆われているが、湖東から湖北の尾根や急斜面においては、いくつかの夏緑広葉樹の二次林が見られる。特に湖北の急斜面においては、ケヤキ林（チャボガヤ - ケヤキ群集）、ケヤキ - ウラジロカジ林（ヒメアオキ - ウラジロカジ群集・ケヤキ亜群集）などの自然林が成立している所もある。

山地中～上部にかけては、ブナの自然林、ミズナラなど夏緑広葉樹の二次林、スギ・ヒノキなどの針葉樹の植栽林がモザイク的に分布している。しかし、ブナクラス域の自然林も人々の生活圏や産業圏の拡大とともに、植林地、保護・観光地として開発利用され、減少の一途にある。

その他、山頂付近には、ある特殊な立地条件の下に成立している自然植生も見られる。たとえばオオイタヤメイゲツ - ミヤマカタバミ群集や自然草原（アカソ - オオヨモギ群集など）は石灰岩地帯に、アカヤシオ群集は風化浸食された花崗岩地帯にそれぞれ限定して生育している自然植生である。

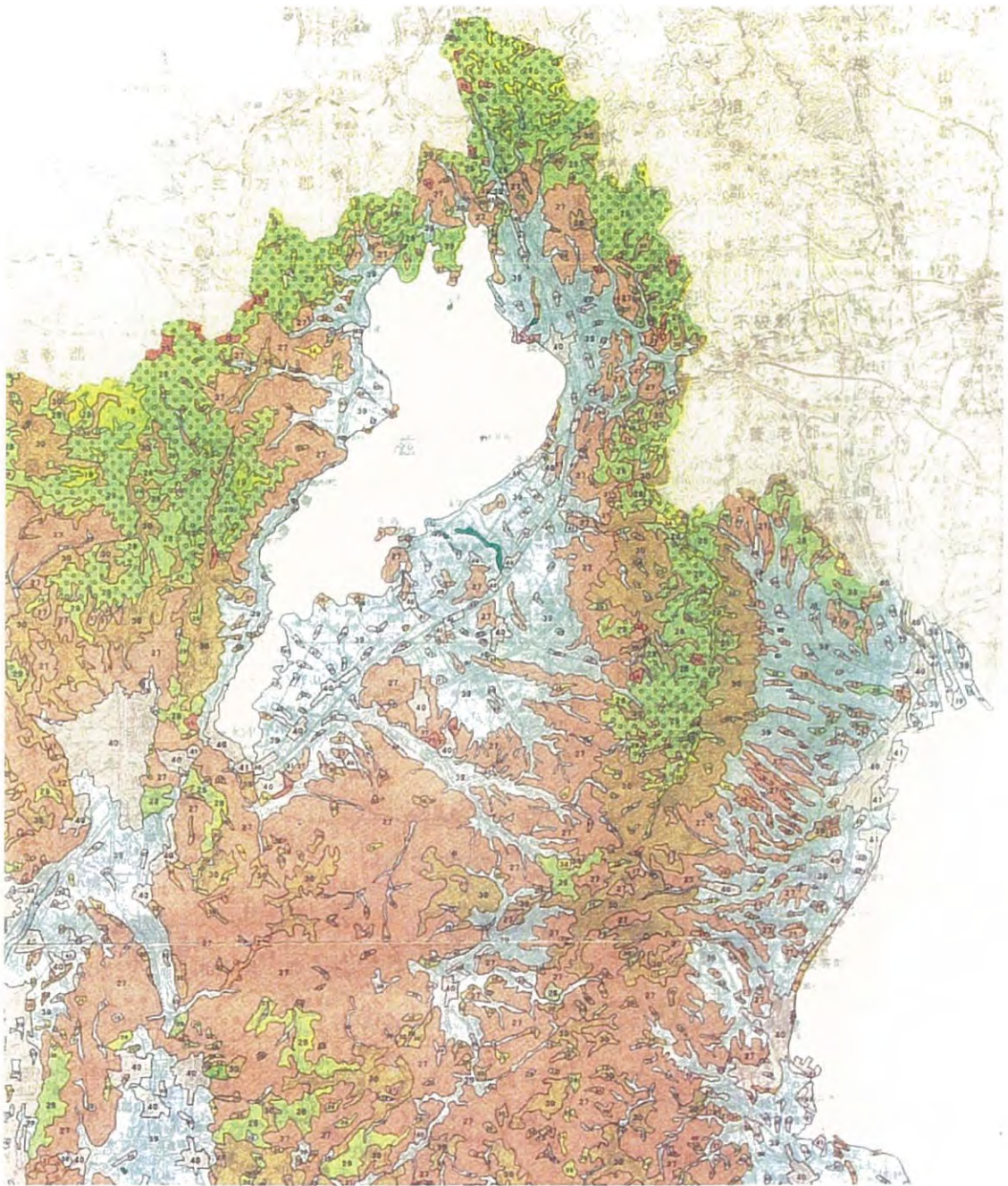


図 1.4 現存植生図（「日本植生誌 近畿」，至文堂, 1984）

凡 例 Legende

I. 自然植生

Natürliche Vegetation

A. ヤブツバキクラス域

Camellietea japonicae-Gebiet



ジャヤナギーアカメヤナギ群集  
*Salicetum eriocarpo-chaenomeloidis*

B. ブナクラス域

Fagetea crenatae-Gebiet



チシマザサ-ブナ群団; チャボガヤ-イヌブナ群集, ヒメアオキ-ブナ群集, クロモジ-ブナ群集  
*Saso kurilensis-Fagion crenatae; Torreyo-Fagetum japonicae,*  
*Aucubo-Fagetum crenatae u. Lindero umbellatae-Fagetum crenatae*



スズタケ-ブナ群団; コハクウンボク-イヌブナ群集, シラキ-ブナ群集, ウラジロモミ-ブナ群集  
*Sasamorpho-Fagion crenatae; Styraco shiraianae-Fagetum japonicae,*  
*Sapio japonici-Fagetum crenatae u. Abieti homolepidis-Fagetum crenatae*

II. 代償植生

Ersatzgesellschaften



シイ, カシ萌芽林  
Verjüngte Sekundärwälder mit *Castanopsis cuspidata* u. immergrünen *Quercus* spp.



コバノミツバツツジ-アカマツ群集 他  
*Rhododendro reticulati-Pinetum densiflorae* u.a.



アベマキ-コナラ群集  
*Quercetum valiabili-serratae*



クリ-ミズナラ群集 他  
*Castaneo-Quercetum crispulae* u.a.



スギ, ヒノキ植林  
*Cryptomeria japonica-*, *Chamaecyparis obtusa*-Forsten



ススキ群団, シバ群団  
*Miscanthion sinensis* u. *Zoysion japonicae*



ベニバナボロギク-ダンドボロギク群集 他(伐採地草本植物群落)  
*Crassocephalo crepidioidis-*  
*Erechtitetum hieracifoliae* u.a. (Schlaggesellschaften)



チカラシバ-ヨモギ群団, カゼクサ-オオバコ群集 他  
*Penniseto-Artemision principis* u.  
*Eragrostio ferrugineae-Plantaginetum asiaticae* u.a.



ウリカワ-コナギ群集 他(水田雑草群落)  
*Sagittario-Monochorietum* u.a. (Reisfeld-Unkrautgesellschaften)

III. その他

Sonstige



集落, 市街地  
Siedlungen



工場地, 造成地  
Fabriken u. Bauflächen



開放水域  
Offene Wasserflächen

図 1.5 現存植生図凡例 (「日本植生誌 近畿」, 至文堂, 1984)

(4) 気象の概要

1) 気象の概要〔「第3回自然環境保全基礎調査」(植生調査報告書 環境庁、昭和63年)〕

滋賀県は、日本海型気候区と太平洋型気候区、および瀬戸内型気候区が相接した位置にある。また、三方からそれぞれ若狭湾、伊勢湾、大阪湾が湾入し、本州の最狭部となっているほか、盆地地形の中央部に県土の6分の1の面積を有する琵琶湖が存在しているなど、かなり複雑な地形要素が加わり、その気候はかなり変化に富んだものとなっている。県内の気候を細分すると、図1.6のように8つの気候区に分けることができる。



図 1.6 気候区分図

2) 年間降水量の分布〔「滋賀の河川」(滋賀県、平成6年)〕

全体の分布図1.7をみると、南部平野部では1,500~1,600mmと少ないが、周囲の山間部では1,800~2,000mmと多く、特に北部山間部へ行くほど多く2,600mmを越える。これは、滋賀県が日本海気候、瀬戸内気候、東海気候の接合する地域で、南部は晴天の日が多いが、日本海気候に属する北部では冬の雪による降雨が多く、冬季の降水量の差が主な要因となっている。

(a) 春(3~5月)

暖かくなるにしたがって北部と南部の降水量の差は少なくなってくるが、3月は、まだ冬の気圧配置になることがしばしばあり、北部山間部では雪による降雨量が加わって南部より多少多い。しかし、他の季節と比較すると、降水量は最も少ない季節である。

(b) 夏 (6～8月)

6月から7月下旬頃までは梅雨期間で、県下全般に最も降水量の多い時期である。降水量は、平野部では180～200mm、周囲の山間部で220～230mmであるが、冬季のような南部と北部の差はない。梅雨明けから8月は、夏季の天気が続き山間部を中心に局地的に雷雨の発生が多くなる。南部平野部でもこの影響のためか中央部より雨量は多くなっている。

(c) 秋 (9～11月)

9月に入ると台風や秋雨前線による影響で全般的に降水量は多く、特に、鈴鹿山脈付近、比良山地および北部山地が多い。10月～11月は、天気は安定し比較的穏やかな日は多いが、冬季の降雨分布に近寄ってくるため、この季節全般では中央平野部から南部にかけて少なくなってくる。

(d) 冬 (12～2月)

大陸では高気圧が発達し、いわゆる冬型の気圧配置が続くようになり、日本海気候の北部では、雪の降る日が多く1mをこす積雪となる。このため降雨量は北に偏るほど多く、柳ヶ瀬以北では260mm以上の降雨となる。

一方、南部では晴天の日が多く、降水量は60mm前後で年間を通じ最も少ない季節である。

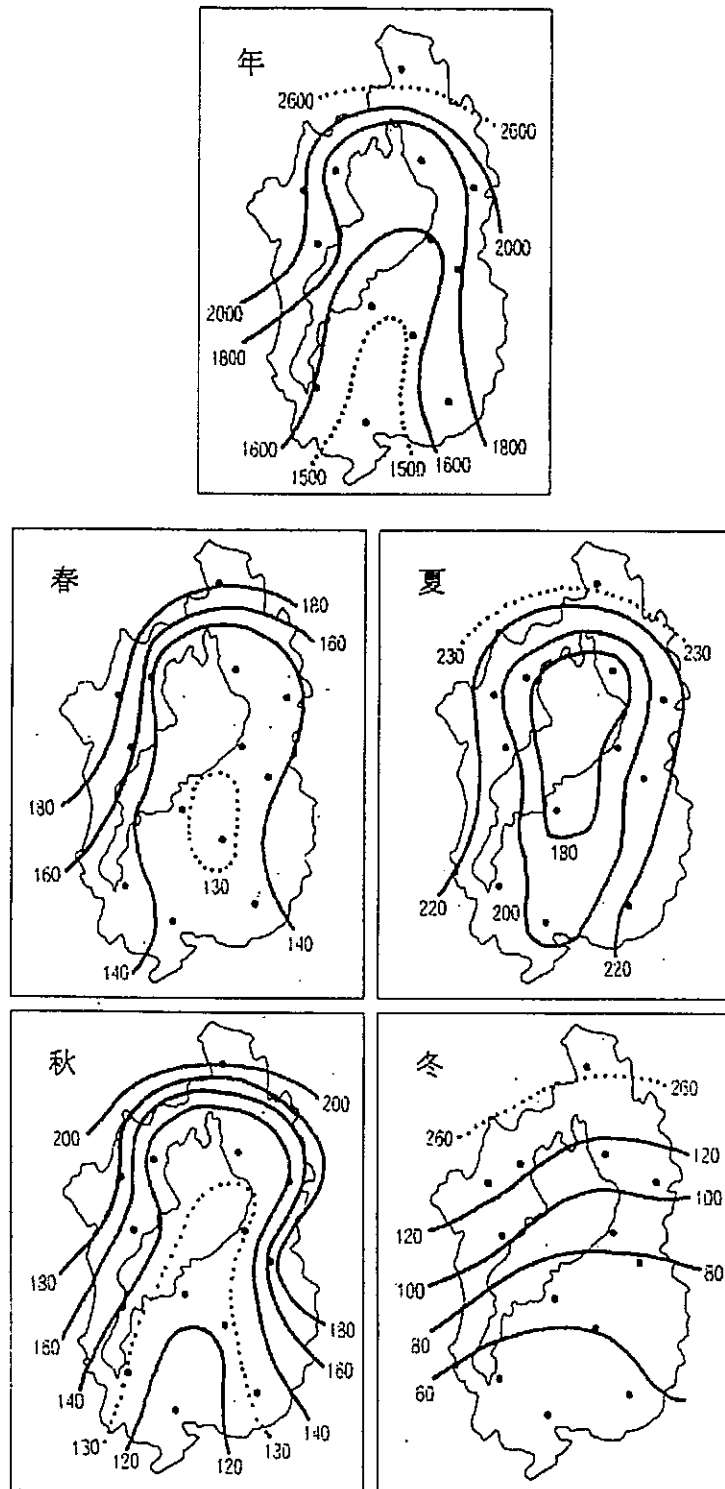


図 1.7 滋賀県の年平均および季節別降水分布図

## 第2節 法令などにおける指定地域

滋賀県内の各種法令の指定状況を以下に示す。

### (1) 地方生活圏

滋賀県全域

- ・南部地域地方生活圏  
大津市、草津、守山市、栗東市、野洲市、甲賀市、湖南市、高島市
- ・中部地域地方生活圏  
近江八幡市、東近江市、日野町、竜王町
- ・東北部地域地方生活圏  
彦根市、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町、米原市、長浜市

### (2) 都市開発区域

- ・近畿圏（琵琶湖東部区域）  
大津市、彦根市、長浜市、近江八幡市、草津市、守山市、栗東市、甲賀市、野洲市、湖南市、東近江市、米原市、日野町、竜王町、愛荘町、豊郷町、甲良町
- ・中部圏（琵琶湖東北部区域）  
彦根市、長浜市、米原市、豊郷町、甲良市、多賀町

アンダーラインを引いた市・町は行政区域の一部が区域指定に係るもの。

### (3) 低開発地域工業開発地区（低開発地域工業開発促進法）

- ・高島地域 高島市（旧マキノ町、旧今津町、旧安曇川町、旧高島町、旧新旭町）
- ・湖北地域 長浜市（旧高月町、旧木之本町、旧余呉町、旧西浅井町）
- ・甲賀地域 甲賀市（旧土山町、旧甲賀町、旧甲南町、旧信楽町）

### (4) 豪雪地帯

- ・法第2条第1項の「豪雪地帯指定」  
大津市（旧堅田町）  
長浜市（H18.2 合併前の旧長浜市、東浅井郡 旧浅井町、H22.1 合併前の伊香郡 旧木之本町、旧西浅井町）、  
米原市（H17.2 合併前の 坂田郡 旧山東町、旧伊吹町）  
高島市（旧マキノ町、旧今津町、旧朽木村）
- ・法第2条第2項の「特別豪雪地帯指定」  
長浜市（H22.1 合併前の伊香郡 旧余呉町）

### (5) 過疎地域

高島市（旧朽木村）、長浜市（旧余呉町）



(6) 山村振興地区

表 1.2 滋賀県の振興山村指定地域一覧表

滋賀県振興山村指定地域一覧表 (平成27年4月1日現在)

郡市町名	合併前町 村名	振興山村 名(旧村)	大字名				指定 年度	指 定 年 月 日	指定時 林野率 %	指定時 人口密 度人/ha
甲賀市	土山町	鮎河村	大河原 鮎河				S41	S41.12.20	91	0.38
		山内村	黒滝 笹路	黒川 山女原	猪鼻	山中				
	信楽町	雲井村	宮町	黄瀬	牧	勅旨	S43	S43.12.28	87	0.62
		小原村	柞原 小川出	中野 西	杉山	小川				
		朝宮村	上朝宮	下朝宮	宮尻					
	多羅尾村	多羅尾								
東近江市	永源寺町	永源寺村	全域				S44	S44.12.27	92	0.50
犬上郡 多賀町		大滝村	川相 一ノ瀬 仏ヶ後 南後谷	藤瀬 樋田 小原 大君ヶ畑	宮之尾 萱原 霧ヶ原	榑崎 大杉 佐目	S40	S41.3.31	86	0.33
		脇ヶ畑村	保月	杉	五僧					
米原市	伊吹町	伊吹村	大久保 弥高	小泉 太平寺	伊吹	上野	S43	S43.12.28	90	0.65
		東草野村	甲津原 上板並	曲谷 下板並	甲賀	吉槻				
長浜市	浅井町	上草野村	野瀬 西村 岡谷	草野 太田	高山 郷野	寺師 鍛冶屋	S46	S47.2.3	91	0.66
	木之本町	杉野村	金居原	杉野	杉本	音羽	S44	S44.12.27	92	0.60
		高時村	大見 小山	川合	古橋	石道				
	余呉町	丹生村	上丹生 小原 尾羽梨	下丹生 田戸 奥川並	摺墨 鷺見	菅並 針川	S42	S42.12.15	93	0.29
		片岡村	文室 池原(新堂) 椿坂	国安 中河内	東野 柳ヶ瀬	今市 小谷				
	西浅井町	塩津村	全域				S45	S45.12.24	82	0.91
永原村		全域								
高島市	マキノ町	剣熊村	小荒路 山中	野口 浦	在原	下	S45	S45.12.24	81	0.66
		西庄村	寺久保 白谷	蛭口 上開田	石庭 下開田	牧野				
	今津町	三谷村	南生見 保坂 天増川	北生見 途中谷 狭山	追分 椋川	角川 杉山	S46	S47.2.3	89	0.47
		川上村	深清水 福岡	桂 北仰	酒波 浜分	日置前				
	朽木村	朽木村	全域				S42	S42.12.15	91	0.27
6市町	12町村	24旧村								

表 1.3 滋賀県の振興山村地一覧（指定関係）

振興山村一覧

郡市町名	合併前町 村名	振興山村 名(旧村)	大字名	指定 年度	指定 年月日	指定 番号	指定時 林野率 %	指定時 人口密度 人/ha	山村振興計画 樹立年度							豪雪	過疎
									1期 S41-S46	2期 S47-S53	3期 S54-H2	4期 H3-H10	5期 H11-H16	(6期) H17-H26	(7期) H27-H36		
甲賀市	土山町	鮎河村 黒滝 山内村 笹路	大河原・鮎河	S41	S41.12.20	131	91	0.38	S41	S42	S48	S57	H6	H13			
			黒川														
			山中														
甲賀市	信楽町	壘井村 小原村 朝宮村 多羅尾村 永源寺村 市原村	猪鼻	S43	S43.12.28	407	87	0.62	S43	S44	S51	S58	H6				
			牧														
			勅旨 小川														
東近江市	永源寺町	川相	富之屋	S44	S44.12.27	594	92	0.50	S44	S45	S48	S55	H3		H27		
			一ノ瀬														
			五徳														
犬上郡 多賀町	伊吹町	大滝村	富之屋	S40	S41.3.31	44	86	0.33	S40	S41	S50	S56	H9		H23		
			菅原														
			大杉 佐目														
米原市	伊吹町	伊吹村	五徳	S43	S43.12.28	408	90	0.65	S43	S44	S49	S57	H5		H27		
			伊吹														
			上野														
長浜市	浅井町	上草野村	高山	S46	S47.2.3	1059	91	0.66	S46	S47	S52	S63	H8				
			郷野														
			寺師 織治屋														
長浜市	木之本町	杉野村	杉本	S44	S44.12.27	595	92	0.60	S44	S45	S53	S60	H6				
			古橋														
			音羽 石運														
長浜市	余呉町	丹生村	菅並	S42	S42.12.15	254	93	0.29	S42	S43	S49	S55	H4			特別 豪雪	
			鷺見														
			針川														
長浜市	西浅井町	片岡村	東野	S45	S45.12.24	814	82	0.91	S45	S46	S50	S56	H4		H17		
			柳ヶ瀬														
			小谷														
高島市	マキノ町	西庄村	在原	S45	S45.12.24	815	81	0.66	S45	S46	S52	S59	H7		H22		
			下														
			牧野														
高島市	今津町	川上村	角川	S46	S47.2.3	1060	89	0.47	S46	S47	S53	S62	H6				
			杉山														
			日置前														
6市町	朽木村	24旧村	酒波	S42	S42.12.15	255	91	0.27	S42	S43	S47	S54	H3				
			流分														
			全域														

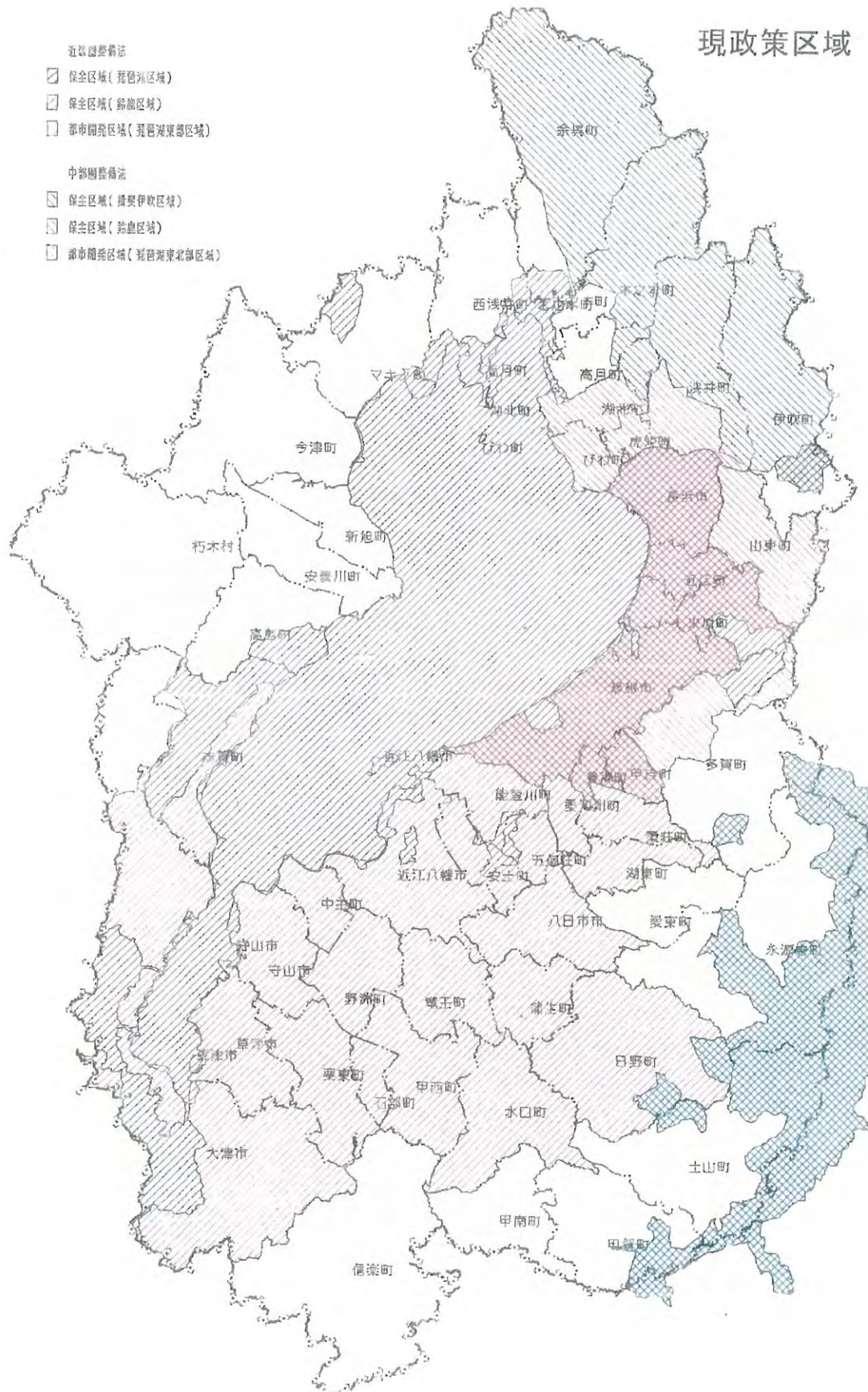


図 1.8 滋賀県の地域指定状況



中部圏政策区域図

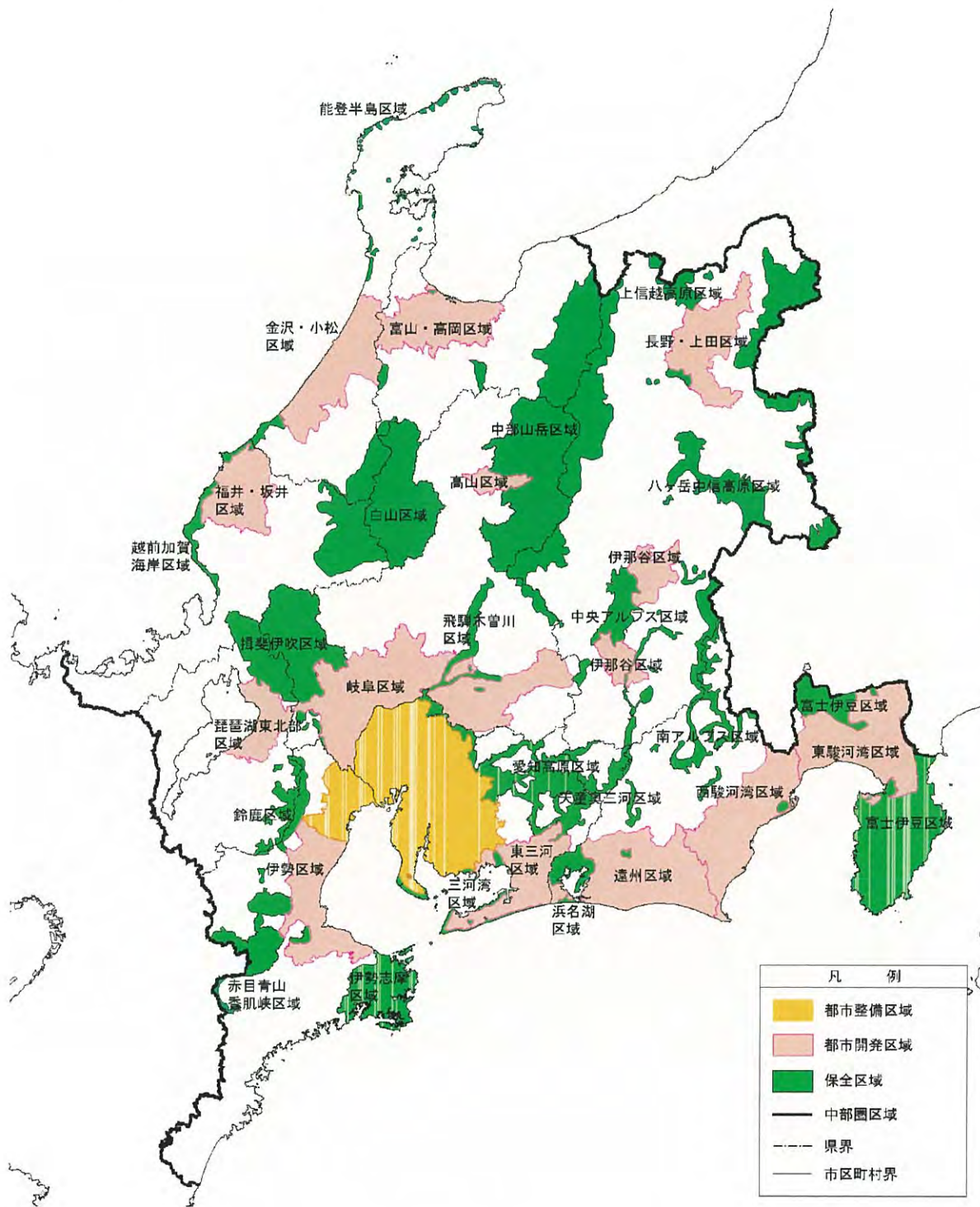


図 1.10 滋賀県の地方生活圈 中部圏 (滋賀県 HP 県政情報より)